

## 短期留学は学習者の異文化コミュニケーション能力 とキャリアビリーフにどのように影響するのか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学教育学研究所 公開日: 2025-11-06 キーワード: 作成者: 渡辺, 英雄, 林, 佳祐 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000749">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000749</a>

# 短期留学は学習者の異文化コミュニケーション能力と キャリアビリーフにどのように影響するのか

How do Short-Term Study-Abroad Programs Affect Learners'  
Intercultural Communicative Competence and Career Beliefs?

渡辺英雄\*

WATANABE Hideo

林佳祐\*\*

HAYASHI Keisuke

## 1. 研究の背景

日本からの海外留学生数は近年変化がみられる。文部科学省（2023）の発表によれば、2004年を境にして、日本から国外の高等教育への留学生数は減少傾向である。例えば、2004年は82,945人であったが、2019年には42,709人まで減少している。ただ、同調査によると大学生等の短期留学生数は2009年から増加傾向である。2009年の短期留学生数（留学3ヵ月未満）は21,683人であったが、2019年には81,671人まで増加している。

この状況の要因として、外国の高等教育の学費及び、現地での生活費の高騰が挙げられる。長期間、大学などの高等教育で学ぶことは日本の学習者にとって難しくなっているようである。そのため、短期留学を選択する者が多いと推測できる。留学の効果において先行研究の中で、言語能力の向上には長期留学が効果的とされる（正楽、2020）。本研究では、短期留学で学習者が得られるものは何かについて研究する。具体的には、異文化コミュニケーション能力、キャリアに関するビリーフに焦点をあてる。

## 2. 先行研究

### 留学と異文化コミュニケーション能力

短期留学において、異文化コミュニケーション能力の向上を期待できるとする先行研究は多い。Byram (2020) は異文化コミュニケーション能力について定義を示している。その定義によれば、異文化コミュニケーション能力は知識（自文化、他文化に関する知識）、態度（自文化、他文化を偏見なく理解する姿勢）、手法（自文化、他文化に関する事柄の深層的に理解する術を持つこと）の観点から理解できる。Ra et al. (2022) はタイからの大学生の留学生に対して異文化市民観 (intercultural citizenship) に関する調査を行った。280人に対してアンケートを行い、32人

\* 武蔵野大学教育学部 \*\* ヴィッセル神戸

に対してインタビューを行った。その結果、対象者は異文化コミュニケーションについて、大学の授業よりも留学体験やNetflixなどのメディアから学んでいることがわかった。また留学後、対象者は英語の多様性に対して寛容になり、英語を共通の言語として捉える傾向があることがわかった。Tajeddin et al. (2020) は2000年から2020年までに発表された留学と異文化コミュニケーション能力についての研究の批評研究を行った。56の学術論文を分析した結果、様々な文化的経験をjする環境が学習者の異文化コミュニケーション能力を向上させることがわかった。

非英語圏への留学についての研究もおこなわれている。Shiri (2015) はアメリカの大学からアラブ圏に8週間の留学をした学生352人に異文化コミュニケーション能力についてのアンケート調査を行った。調査によると、対象者は概ね中級程度の異文化コミュニケーション能力を留学により習得したと考えられる。中級とは伝統、歴史、政治について比較したり、認識したりする能力、あまり頻繁にはないイベントに参加してコミュニケーションをとる能力が含まれる。また短期留学において研修のような用意された支援と日常生活の体験の両方が対象者の異文化コミュニケーション能力の向上に寄与したとわかった。これによりShiriは短期間の留学でも異文化コミュニケーション能力の向上は期待できると結論付けた。Arfiandhani & Suraya (2020) は英語教員志望の大学生3人にインタビューを行い、3人全員が非英語圏への留学により外国語能力、文化的知識、批判的思考力を向上させたことを発見した。

### 短期留学とキャリアビリーフ

キャリアビリーフとは、職業選択やキャリアプランに関連して、個人とそれぞれの職業集団に対してもつ思考や一般的解釈を指す概念である (Krumboltz, 1991)。留学経験は個人のキャリアビリーフに影響を与えると先行研究では示されている。スペインへの1年間の留学を行った大学院修士課程の学生へのインタビュー調査 (Valls-Figuera et al., 2023) において、研究対象者は留学により自分のキャリアの可能性が大きくなったと感じていた。これは留学により人的つながりが広がったこと、また自国において非留学経験者との差別化が図られたことが主な要因だと結論づけられた。Kronholz & Osborn (2016) はアメリカの大学で学ぶ112人の学生に留学とキャリアに関するアンケート調査を行った。研究対象者は全員4か月間の留学経験を行った。アンケート調査の結果、対象の大学生は留学経験により、自己分析を深め、自身の興味、知識、技能をキャリアにつなげる能力が向上しているとわかった。そして、自身のキャリアに対して肯定的な意識を持つようになった。Kronholz & Osborn (2016) は留学前後にキャリアについての指導を行うことが有効であるとする。留学前には個人の責任や気付きに関する指導を行うとよいと主張する。留学後は、学生が批判的考察をできるような機会を設けるべきだとしている。

Orahood et al. (2008) はアメリカの大学を卒業した者を対象に留学とキャリアの軌道の関係を調べた。分析の結果、留学とキャリアの軌道には因果関係はないことがわかった。ただし、キャリア構築に応用可能であるコミュニケーション能力、適応力、柔軟性が留学によって身につけていると結論づけた。また大学生への対応として大学生活の早い段階から留学を計画させるよう働きかけることが効果的だという。これは非留学経験者が大学生活における計画を行っていなかったことから留学体験をしなかったことからの主張である。

### 3. 研究課題、方法、対象

#### 研究課題

本研究は下記の2つの研究課題を設定した。

- ① 短期留学は参加大学生の異文化コミュニケーション能力にどのように影響するのか
- ② 短期留学は参加大学生のキャリアビリーフにどのように影響するのか

#### 研究対象

研究対象は東京都にある大学生である。研究対象者は大学在学中に、それぞれアメリカ、オーストラリア、フィリピンに3週間から3ヵ月間短期留学を行った。留学先と留学期間については表1、2にまとめている。1人の研究対象者はアメリカ（3週間）とオーストラリア（1週間）に留学を行った。

表1. 研究対象者の留学先

留学先	人数	割合
オーストラリア	7名	59%
アメリカ	4名	33%
フィリピン	1名	8%

表2. 研究対象者の留学期間

留学期間	人数	割合
3週間	4	34%
5週間	3	25%
1ヵ月	2	17%
3ヵ月	1	8%
1ヵ月半	1	8%
1週間	1	8%

#### 研究方法

本研究では4件法及び自由記述のアンケートと半構造化インタビューを行い、研究課題を明らかにすることに努めた。4件法及び自由記述のアンケートでは11名を対象に調査を行い、半構造化インタビューでは3名を対象とした。アンケートはByram (2020) が提唱する異文化コミュニケーション能力の構成要素である知識、態度、手法の観点から作成した。アンケートと半構造化インタビューでの質問事項は附属資料に示す。

3名のインタビュー対象者はそれぞれ大学4年生であり、個人情報の観点から仮名を使用する。インタビューは筆者の一人である林が行い、録音・文字起こしを行った。春香は大学在学中にオー

ストラリアに4週間滞在した。大学卒業後は公立中学校で英語教員として勤める予定である。寿はオーストラリアに5週間滞在した。大学卒業後は公立小学校の教員になる予定である。洋平も寿と同じくオーストラリアに5週間留学した。洋平は大学卒業後に海外で生活する準備をしている。

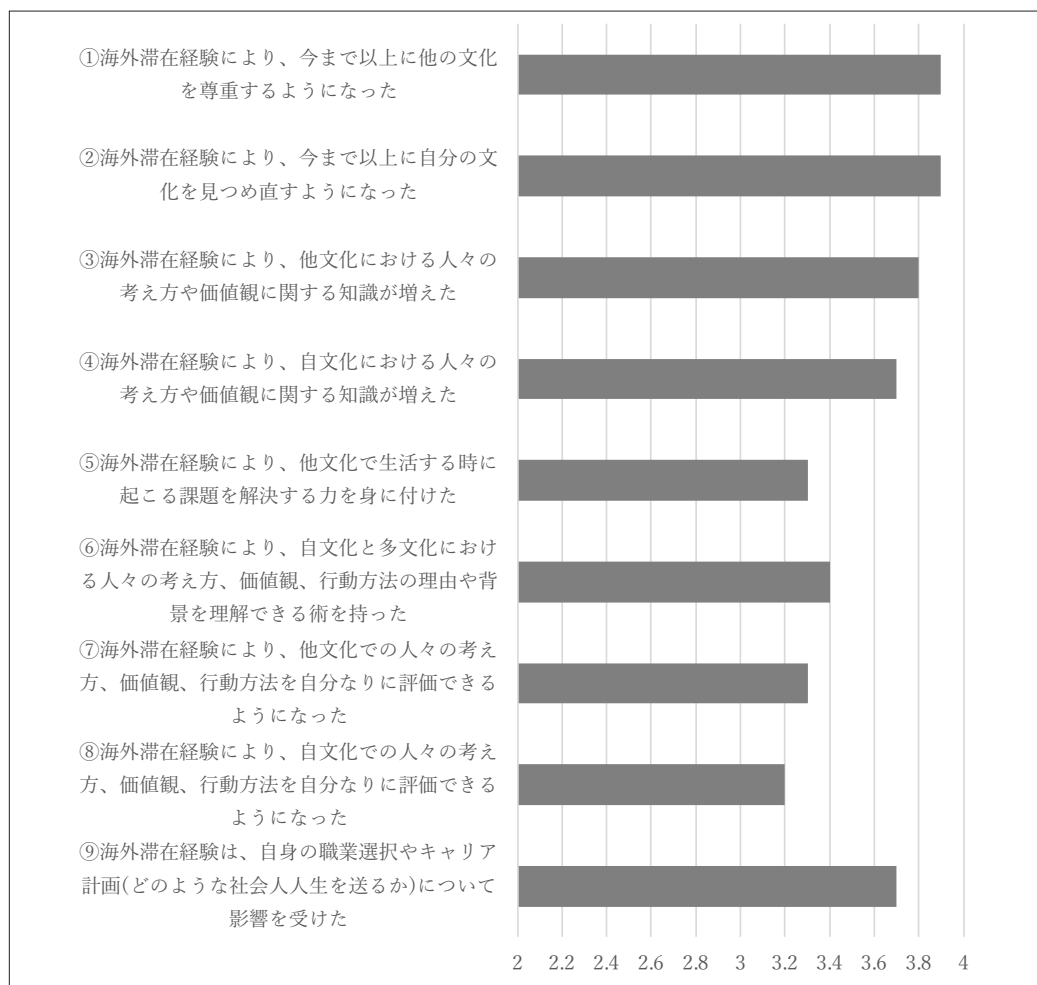
## 4. 結果

### アンケート調査結果

ここでは、Byram (2020) が提唱する異文化コミュニケーション能力の構成要素である「態度」、「知識」、「手法」、「批判的文化的意識」と「キャリア」の観点から行ったアンケート調査の結果を示す。表3では各質問の回答の平均値を表している。平均値を出すにあたって、「そう思う」を4、「ある程度そう思う」を3、「あまりそう思わない」を2、「そう思わない」を1として計算した。質問「①海外滞在経験により、今まで以上に他の文化を尊重するようになった」、「②海外滞在経験により、今まで以上に自分の文化を見つめ直すようになった」は異文化コミュニケーション能力の「態度」に関する質問である。両方の質問において平均値は3.9であった。質問「③海外滞在経験により、他文化における人々の考え方や価値観に関する知識が増えた」、「④海外滞在経験により、自文化における人々の考え方や価値観に関する知識が増えた」は異文化コミュニケーション能力の「知識」に関連している。平均値はそれぞれ3.8と3.7となった。質問「⑤海外滞在経験により、他文化で生活する時に起こる課題を解決する力を身に付けた」、「⑥海外滞在経験により、自文化と多文化における人々の考え方や価値観、行動方法の理由や背景を理解できる術を持った」は異文化コミュニケーション能力の「手法」について問う項目である。質問⑤への回答の平均値が3.3となり、質問⑥については平均値が3.4であった。質問「⑦海外滞在経験により、他文化での人々の考え方や価値観、行動方法を自分なりに評価できるようになった」、「⑧海外滞在経験により、自文化での人々の考え方や価値観、行動方法を自分なりに評価できるようになった」は異文化コミュニケーション能力の「批判的文化的意識」の関連した質問である。平均値はそれぞれ3.3と3.2となった。最後の「⑨海外滞在経験は、自身の職業選択やキャリア計画(どのような社会人人生を送るか)について影響を受けた」はキャリアビリーフについてであった。この質問への回答の平均値は3.7であった。

このアンケートにはキャリアビリーフについての自由回答の質問を設定した。「⑨海外滞在経験は、自身の職業選択やキャリア計画(どのような社会人人生を送るか)について影響を受けた」に、「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した研究参加者に、どのような影響があったかを尋ねた。ここでは、さらなる異文化体験の願望、短期留学の経験から将来の仕事像の変化、そしてキャリア計画への意識の変化が見られた。例えば、さらなる異文化体験の願望では、「海外の仕事や、長期で滞在する期間を人生で設けたい」という回答があった。また、短期留学の経験から将来の仕事像の変化では、「子どもたちに伝えるときにも他文化を尊重して、様々な国の色々な人と関わるということを教えたいと思った」と回答する例がある。キャリア計画への意識の変化に関しては、「一度就職したら一生働くという考え方だったが、海外滞在中を通して、仕事を辞めて海外へ行く人生や転職する人生など新しい生き方も視野に入れるようになった」と回答した。

表3. アンケート結果一覧



### インタビュー調査結果

インタビュー調査結果では、研究対象者3名（春香、寿、洋平）ごとの分析結果を示す。春香は、1ヶ月のオーストラリア留学を行った。まず、渡航前から異文化コミュニケーションへの意欲が高かった。春香は「なるべく日本人の友達といたないようにしたりとか、何かいろんな国の友達を作ったり、っていうのを一番意欲的にやっていた」と語る。また留学して自文化について考える機会を得て、日本人は「すごい周りの目を気にしながらじゃないと何か上手に生きていけないな」と考える。オーストラリア文化については多くのことについて考えながら、現地の人々の言動を支える背景や価値観については考察を行っていた。例えば、ホームステイ先の子どもの保護者に対しての直接的な言葉遣いに対して、「言いたいことはちゃんとと言う」という考え方があるのではないかと春香は考えた。自身のキャリアに関しては、学校の教員になりたいという希望には変化がなかった。ただキャリアの計画について留学を通じて心境の変化があった。それは年齢を重

ねた後でも海外留学や海外での生活をするにはできると考えるようになった。春香は「また海外行きたくなったらその時、行けるように働いてる間は頑張ろうと思った」と話す。この考えは、留学先で出会った人々が様々な年齢でありながら新たな挑戦をしている姿を見たからで、「自分より年上の人とかの方が全然多くて、あったのでなんか私は卒業してから海外に行くか働くかみたいなのか、そのどちらかの考えしかなかったんですけど、なんか1回働いてみて、また行きたくなったら別に行けばいい」と話した。

寿はオーストラリアで5週間過ごした。春香同様、寿は異文化コミュニケーションへの意欲はとて高く、日本人が多い語学学校だけでなく、「学校外で外国人の人と関わろう」という気持ちで留学を迎えた。留学をする中で、英語を使うことへの意識があった。寿は、「英語を使うことに対する考え方、そういったところはすごい変わったなっていうふうに思いますね。積極的に何か使っても別に大丈夫なんだ」と語った。オーストラリアの文化については日本と大きく変わらないと感じた。ただ日本について考えると、「他人に迷惑をかけないことをすごく意識してるんだな」、「迷惑をかけないが、すごい中心にある」と回答した。キャリアについては、春香同様に教員になりたいという気持ちに変化はなかった。ただ「海外で働いてみたいみたいな、ワーホリとか行ってみたいみたいな気持ちがすごい強くなって」と将来的には国外で過ごすことを望む。またそれに関連して、ホストファミリーなどの働き方を見て、キャリアについてのピリフに変化があった。寿は、「土日の過ごし方とか、そういった何か仕事の終わった後の過ごし方とか見て」、このような働き方がしたいと思うようになったと話した。

洋平はオーストラリアで5週間の短期留学を行った。春香、寿と同様に異文化コミュニケーションへの意欲はとて高かった。洋平は「短期間ってというのがすごい僕の中でネックにあったので、その中で何ができるんだらうなっていうふうに考えたときにまず、コミュニケーションを海外の人とたくさん取らなきゃいけないな」と話す。留学前は、自分の英語力への自信のなさから英語を話すことへの不安を感じていたが、留学してみると「話すことに対してのその恐怖心とか、そんな悠長なこと言っていられないので期間も短いんで、何でもその間違えればいいとかそういう関係なしにして話すっていうことに対しての恐怖心っていうのは少しなくなった」という。オーストラリアの文化については、お店が早く閉まることへの驚きとともに、その背景にあるオーストラリアにいる人々の時間、家族、労働への考え方を考察するようになった。洋平は、「お店で働いている人たちも早く帰りたいんじゃないかな」、「家族の繋がりがっていうか、団結力ってのがすごい強く見えて」、「人との繋がりとか大事にしてるんだな」と答えた。洋平は留学中に、日本とオーストラリアでの人々のコミュニケーションの取り方に注目した。オーストラリアでは、知らない人同士でも反応などが多様で円滑にコミュニケーションを取っていて、かつ会話の中で「ちゃんと自分の意思が入ってるな」と考えた。日本でのコミュニケーションは、「日本人の曖昧な表現はうまいな」と感じた。そして、「留学に行く前と行く後だと、結構こんなに日本人って自分の意思そんなに出してないんだな」と洋平は続けた。自身のキャリアについては、留学中にホストファミリーや現地で知り合った人からの言葉で大きく変化した。洋平は、「現地のホストマザーとかの人とか、現地で知り合った人に、結構自分の将来のこととかを話したんですよ」、「大体の人が、行った方がいいとか、やった方がいいとか、そういう考えできるのは素晴らしいよねとかっていうふうに言ってくれて、自分の人生だから自分の好きなように生きるのがいいと思うよ」と

話す。そして、「相談したことがきっかけで、自分の進路っていうのを決めるきっかけになったかな」と話す。そして、洋平は大学卒業後に、オーストラリアへ行くことを決めた。ただ、春香、寿同様に「教員になろうっていう、その根本的なことはあんまり変わってないかな」と話した。

## 5. 考察

### 短期留学と異文化コミュニケーション能力

短期留学は異文化コミュニケーション能力の「姿勢」と「知識」を高めるが、「手法」と「批判的文化意識」については限定的な影響であるといえる。「姿勢」に関するアンケート項目では平均値は3.9で、「知識」に関する質問2つは3.8と3.7であった。ただし、「手法」に関する質問では、平均値は3.4であり、「批判的文化意識」についての質問は3.3と3.2であった。短期留学では、異文化体験の幅がそこまで広くないことが、「手法」の数値が低いことと関連していると考えられる。また留学において明示的に表れる言動については多く接するが、その背景や考え方についてまでの理解を進めることは難しい可能性がある。ただし、インタビュー調査でわかったことに、短期留学においても自文化の価値観や考え方を評価するようになったことがわかる。春香は、日本にいる人々は「すごい周りの目を気にしながら」生活していると語り、寿は「他人に迷惑をかけないことをすごく意識」していると考えた。つまり、「批判的文化意識」はほかの項目と比べるとアンケートでの数値は低いものの、短期留学でも身につく可能性が十分にあると言える。短期留学でも異文化コミュニケーション能力の向上が見られることは、Ra et al. (2022)、Tajeddin et al. (2020)、Shiri (2015)、Arfiandhani & Suraya (2020) の先行研究の結果とも一致している。

### 短期留学とキャリアビリーフ

短期留学はキャリアビリーフに影響を与えられると分析結果から考えられる。アンケート調査での平均数値は3.7であった。具体的には、異文化体験の願望、短期留学の経験から将来の仕事像の変化、そしてキャリア計画への意識の変化が見られた。このことはインタビュー調査により、より明らかになった。「短期留学の経験から将来の仕事像の変化」、「キャリア計画への意識の変化」は短期留学先で出会う人々の影響が大きいことがわかった。春香は、自分よりも上の世代の人々が新たなキャリアに挑戦している姿を見て、これまで持っていた人生計画の考え方をえるようになった。寿は自分の時間を大切に作る働き方についての影響を受けた。洋平は自身の持つキャリアについて短期留学先で出会った人に伝えた時に得たアドバイスや反応から大学卒業後に海外に行くことを決めた。洋平にとってはとても大きな決断であった。ただし、キャリアについて影響を受けないこともあったことが興味深い。春香、寿、洋平は3人とも教員を目指すことの変化はなかったと語った。キャリアのゴールには変化がなく、そのキャリアをどう達成するか、いつ達成するかについて変化があったといえる。これは Valls-Figuera et al. (2023) が行った研究短期留学者がキャリアの可能性が広がったと感じたという先行研究に類似している。ただ、Orahod et al. (2008)の研究では、短期留学とキャリアの軌道についての因果関係は認められなかった。そのため、キャリアビリーフに関する短期留学の短期的影響と長期的影響についてさらなる研究が必要である。

## 短期留学における異文化コミュニケーション能力向上のための有効な手立て

短期留学において環境、準備はとても重要である。明示的に文化について学ぶのではなく、様々な文化的要素に触れ、留学生が自ら考え学ぶことができる環境はとても重要である (Tajeddin et al., 2020)。また Orahod et al. (2008) は留学前の準備や指導が大事であるという。インタビュー調査を行った3人は、共通して限られた時間の中でできるだけ自身の英語力を高めたり、現地の人々と接したりしようとする強い意志を持っていた。そのことが英語学習やキャリアに関する考え方を変えていった。留学プログラムにおいては充実した事前指導と様々な異文化体験ができる内容を含むべきであると考えられる。

## 6. 結論

本研究では短期留学が異文化コミュニケーション能力とキャリアビリーフに大きく影響することがわかった。ただ異文化コミュニケーション能力の各構成要素で向上の差が見られる。「態度」と「知識」は大きく向上し、「手法」と「批判的文化意識」はそれほど大きな向上見られなかった。また、短期留学はキャリアビリーフにも大きく影響を与えると考えられる。留学先での出会いがキャリアについての考え方を換えることがわかった。

## 謝辞

この研究は2023年度武蔵野大学しあわせ研究費（研究テーマ：異文化体験が及ぼすキャリアビリーフ（職業的信念）への影響）の助成を受けて行った研究です。アンケート、インタビュー調査に参加して頂いた方々にお礼申し上げます。

## 参考文献

- Arfiandhani, P, Suraya, F. (2020). Pre-service English as a foreign (EFL) teachers' intercultural communicative competence development during their study abroad program. *Advances in Social Science, Education and Humanities Research*, volume 518. 402-406.
- Byram, M. (2020). Teaching and assessing intercultural communicative competence: Revisited. *Multilingual Matters. The Interdisciplinary Journal of Study Abroad*, 27. 70-84.
- Kronholz, Julia F. & Osborn, Debra S. (2016). The Impact of Study Abroad Experiences on Vocational Identity among College Students.
- Krumboltz, J. D. (1991). *Manual for the career beliefs inventory*. Palo Alto, CA: Consulting Psychologists Press.
- Orahod, T., Woolf, J., & Kruze, L. (2008). Study Abroad and Career Paths of Business Students. *Frontiers: The Interdisciplinary Journal of Study Abroad*, 17(1), 133-141.
- Ra, J. J., Boonsuk, Y., & Sangiamchit, C. (2022). Intercultural citizenship development: a case of Thai study abroad students in EMI programs. *Journal of English as a Lingua Franca*, 11(1), 89-104.
- Shiri, S. (2015). Intercultural communicative competence development during and after language study abroad: Insights from Arabic. *Foreign Language Annals*, 48(4), 541-569.
- Tajeddin, Z., Khanlarzadeh, N., & Ghanbar, H. (2022). Learner variables in the development of intercultural competence: A synthesis of home and study abroad research. *Studies in Second Language Learning and Teaching*, 12(2), 261-301.
- Valls-Figuera, R. G., Torrado-Fonseca, M., & Borràs, J. (2023). The Impact of International Student Mobility on Multicultural Competence and Career Development: The Case of Students from Latin America and the Caribbean in Barcelona. *Education Sciences*, 13(9), 869.

短期留学は学習者の異文化コミュニケーション能力とキャリアビリーフにどのように影響するのか（渡辺・林）

正楽藍. (2020). 大学生の留学動機と学習成果. 大學教育研究, 28, 11-27.

文部科学省. (2023). 「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について [https://www.mext.go.jp/content/20230201-mext\\_kotokoku01-1412692\\_00003.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230201-mext_kotokoku01-1412692_00003.pdf) (2023年11月8日アクセス)

## 附属資料

### アンケート質問事項

- ① 海外滞在経験により、今まで以上に他の文化を尊重するようになった。
- ② 海外滞在経験により、今まで以上に自分の文化を見つめ直すようになった。
- ③ 海外滞在経験により、他文化における人々の考え方や価値観に関する知識が増えた。
- ④ 海外滞在経験により、自文化における人々の考え方や価値観に関する知識が増えた。
- ⑤ 海外滞在経験により、他文化で生活する時に起こる課題を解決する力を身に付けた。
- ⑥ 海外滞在経験により、自文化と多文化における人々の考え方や価値観、行動方法の理由や背景を理解できる術を持った。
- ⑦ 海外滞在経験により、他文化での人々の考え方や価値観、行動方法を自分なりに評価できるようになった。
- ⑧ 海外滞在経験により、自文化での人々の考え方や価値観、行動方法を自分なりに評価できるようになった。
- ⑨ 海外滞在経験は、自身の職業選択やキャリア計画（どのような社会人人生を送るか）について影響を受けた。
- ⑩ 『そう思う』、『ある程度そう思う』と回答した方は、どのような影響があったか教えてください。

### インタビュー質問事項

- ① 短期留学という限られた時間の中で、一番意欲的に取り組もうとした事は何でしたか。留学を終えてみて得たものは何でしたか。
- ② 留学を経験し他文化に触れて、自文化・他文化についてどのような発見をしたり、あなたのこれまでの考え方に変化がありましたか。
- ③ 今回の海外滞在から一番学べた事はなんですか？その学んだ事をどう生活に活かして行きたいですか。
- ④ 留学中、現地の人々の言動のような見える文化はどのような考えや価値観から生まれているか考える機会がありましたか（例 お店でお客さんもよく thank you を言う。それをなぜ行うのか等）。
- ⑤ 同様に日本での人々の言動の仕方についてその裏にある考え方や価値観を考えることはありましたか。
- ⑥ 留学中でのどのような経験により自身の職業選択やキャリアの考え方が変わったと思いますか？また変わらなかった部分はなんですか。その他自分のキャリアについての考えに影響を与えたことを教えてください。
- ⑦ キャリアの考え方に影響を受けた方は、留学前に考えていた卒業後の職業選択や社会人生活の考え方がどう変化しましたか。